

事業実績書

事業名	東海道みちしるべ in ぬまづ	
場所	沼津市内 旧東海道ルート沿い 及び 周辺エリア	
期間	令和5年 8月 1日 ~ 令和6年 3月 26日	
	日程	実施項目・作業項目
		※ 実施内容、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、スケジュールも併せてわかりやすく記載してください。 イベントや研修会等の行事日程だけでなく、事業期間すべてにわたる実施内容を記入してください。(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会など)
事業 内 容	8/1	事業期間開始、本日付け「補助金交付決定通知書」
	8/4	沼津史談会 副会長(よろず相談所)長谷川 徹氏講演依頼、了承受諾
	8/5	19:00~ 本町区商店会連合会合にて概要説明、協議 岡田会長はじめ8名出席+赤池
	8/6	本町区商店会連合へ吊り下げ旗の頒布説明資料等提出
	8/8, 28	沼津史談会副会長 長谷川 徹氏公演等内容協議
	8/28	本町区連合自治会役員会議・連絡会にて事業内容説明及びご協力要請協議 (11月23日の会場使用許諾)
	8/30	沼津市明治資料館 図版資料準備
	8/31	沼津史談会副会長 長谷川 徹氏公演会打合せ
	9/4	歴史ミニセミナー チラシ原案作成
	9/7	歴史ミニセミナー チラシ内容確認 講師 長谷川 徹氏
	9/8	市役所地域自治課藤島氏 「広報」に関する確認、打合せ
	9/15	木村旗店 吊り下げ旗(20旗)正式発注 製作期間~納期約3週間(予定)
	9/15	沼津市会計から、まちづくりファンド概算払いにて10万円交付
	9/24	ららぽーと沼津「LOVE NUMAZU」イベント会場にて吊り下げ旗掲示公開
	9/27	沼津朝日新聞社へ情報提供(対面にて小野直樹記者) ~投稿原稿送信(Email 経由にて)
	10/2	吊り下げ旗納品(木村旗店) 4500円×20旗 + Tax. 10% 支払い
	10/2	1旗 浅間町 丸子神社・浅間神社へ奉納(無償)
	10/2	6旗 本町区商店連盟(代表:岡田金魚店)へ頒布
	10/2	沼津史談会 副会長 長谷川 徹氏へ旗現物披露し講演内容、スケジュール打合せ
	10/3	11月23日 歴史ミニセミナー開催に係る近隣へのPR実施 ~魚町(1)、本町(2)、浅間町(2)、幸町(5)店舗、等
	10/3	1旗 浅間町 沼津製茶(株)へ頒布
	10/7	沼津朝日新聞 囲み記事「東海道みちしるべ」掲載
	10/7	1旗 下本町自治会へ頒布
	10/14	神社マーケット「マルコ ノレン センゲン」~ブックとベベ2023年秋日和にて 沼津朝日新聞社 取材対応 (インタビュー及び写真撮影)
	10/28	沼津朝日新聞 上記取材時の紹介記事掲載
	11/1	広報ぬまづ(1701号) 11月23日歴史ミニセミナー開催告知掲載
	11/7	11月23日歴史ミニセミナーの件 プレス用告知打合せ 地域自治課にて
11/10	上記プレスリリース向け宣材用画像提供 地域自治課 協働推進係宛	
11/10	沼津史談会 副会長 長谷川 徹氏 講演打合せ	
11/13	沼津史談会 副会長 長谷川 徹氏 打合せ(11/17~19中央公園展示、11/23講演)	
11/16	市役所にてプレスリリース発行	
11/17	中央公園におけるコラボレーション展示(沼津に城があった頃再現実行委員会)対応 ~現地(中央公園)における設置位置及び方法確認	
11/18	「沼津城 大手櫓門再現図」パネル(沼津に城があった頃再現実行委員会)	
-19	(令和5年度 民間支援まちづくりファンド採択事業)とのコラボ展示実施	
11/22	市役所 政策企画課 市制100周年記念事業推進室 「市制100周年PR用法被」4着 借り出し	

	<p>11/22 沼津市本町 コーポ寿山 翌日のセミナー会場設営(一部)</p> <p>11/23 歴史ミニセミナー『川口マップによる本町・東海道の話』開催 8:00 丸子神社・浅間神社 手仕事会出展設営 9:00 講師迎え、受付準備 9:30 受付開始 10:00 口演(座学セミナー)開始 講師：長谷川 徹 氏/司会 赤池 康浩 参加者：24名+α 11:15 街歩き(本町区域東海道)開始 解説：長谷川 徹 氏・渡邊 美和 氏 歩行参加者：9名 同行：赤池 康浩 (通横、魚、仲、くまたか、本・下本、浅間、出口(幸)・出口見附外の各町) 12:30 終了(その後、講師送り、会場撤収)</p> <p>11/24 歴史ミニセミナー講師残務対応 沼津史談会 資料(川口マップ 300円×25部 計7,500円)代金支払い</p> <p>12/27 アンケート集計開始 静岡県庁『ふじのくに魅力ある個店』令和6年1月ピックアップ特集 「連携して地域活性化に取り組むお店」WEB掲載店舗募集への応募</p> <p>1/5 上記WEB掲載採用決定連絡到着 ~1/11までに掲載データ提出対応</p> <p>1/15 『ふじのくに魅力ある個店』WEB. 令和6年1月ピックアップ特集 Vol. 70 公開開始 https://f-koten.jp/pickup/70.html</p> <p>1/25 『ふじのくに魅力ある個店』Instagram および「静岡県商業まちづくり室」Facebook にて、「連携して地域活性化に取り組むお店」店舗情報公開 https://www.instagram.com/attractive_shizuoka_shops/ https://www.facebook.com/mati.shizuokaken</p> <p>1/25 長谷川 徹 氏講演への吊り下げ旗コラボ展示打合せ</p> <p>1/26 沼津法人会 第二ブロック新年研修会(沼津南・千本・片浜支部合同開催) 「沼津花街昔話」講師：長谷川 徹 氏 (於：さんさんホール(大手町)) 吊り下げ旗掲示、「東海道みちしるべ」活動内容概説プレゼン</p> <p>2/6 11月23日イベント時アンケート結果の集計・解析</p> <p>2/6 アンケート集計結果 セミナー講師へ報告、今後への協議 沼津史談会 長谷川 徹 氏</p> <p>3/21 報告書・事業実績書、等作成</p> <p>3/26 報告書・事業実績書、等提出</p>	
事業効果		<p>※ 事業計画書において設定した、成果指標に対する実績値を、具体的な数値を用いて記載してください。</p> <p>1. 東海道歩きルート現地での見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「沼津宿」吊り下げ旗掲示地点 開始前0地点→開始後8か所(他、イベント・コラボ展示にて更に+3か所) ・SNSへの発信等：WEB、Facebook、Instagramの活用 ・地元紙への掲載：2回 (資料別添) (①2023年(令和5年)10月7日土曜日、②2023年(令和5年)10月28日土曜日) ・広報ぬまづ 歴史ミニセミナーイベント参加募集告知 2023年11月1日1701号 <p>2. 住民意識の再活性化</p> <p>セミナー参加者等アンケート集計結果等から見受けられた現状と課題(資料別添)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者年齢層：50歳台11%、60歳台22%、70歳台67% 現状__関心年齢は50歳代以上 課題__より若年層が関心を得られる方向性の模索 ・参加者(アンケート回答者)の住まい 東海道沿いのa.沼津宿67%、b.原宿0%、c.大岡11%、d.その他17% 市外0%、無回答5% 現状__旧東海道へ「地元意識」を抱くエリアからの参加者が殆どだった (その他(沼津宿外)の事例：常磐町、本松下、御幸町、今沢、岡宮) 課題__「広報ぬまづ」「沼津朝日新聞」等の他、SNS等発信のより一層の活用

	<ul style="list-style-type: none"> ・東海道ルートへの認知 前から正確なルートを知っていた 55% なんとなく知っていたが特に意識していなかった 28% 初めて知った 17% 現状_「知っていた」83%を超えていた 課題_意識の高い方々でも8割であり、関心の低い方では更に低い可能性 今後知っていく(学んでいく)興味を持って頂くきっかけ作りが必要 ・街道歩きに伴う街歩きについて したことがある(自分がしている) 30% している人を見たことがある(知っている) 15% したことはないが興味はある 50% まったく興味が湧かない、している人も見たことがない 0% 現状_「したことがないが興味がある」が半数に上った 課題_どのような形で自分が関われるかについての提案や深化への検討が必要 ・「沼津宿」吊り下げ旗の認知度(街で実際の掲示を見たことがあるか?) ある 88.9%、ない 11.1% 現状_まだ設置個所は少ないながら、掲示すれば認識は得ることが出来る 課題_より目につく場所、より多くの場所への展開努力、掲示協力の拡大 ・「沼津宿」吊り下げ旗の有益性 役に立つ 94.4%、役に立たない 0%、どちらとも言えない 5.6% 現状_「役に立たない」とは思わないが... 課題_更なる展開、活用、アピールの仕方次第 (寄せられた意見(コメント)に付いては別添集計表にて。)
自己評価	<p>※ 上記事業効果を踏まえて、事業の自己評価をしてください。</p> <p>過去に地域自治体等のアイデア出し会合で発想されても、長年実現へ移行できなかった取り組みが、たった一人の牽引する事業によってゼロから1へ向かい少なくとも動き出すことが可能なことをお示し出来たものとする。</p> <p>本事業の取り組みの発想をご理解下さる方々を、草の根的な対話等によって拡大していくことも出来、今後も地道な活動は時代を問わず有効だと改めて実感。</p>
今後の活動予定	<p>※ ファンドを利用予定・自己資金で活動・事業の見直し等、今後の展開について記載してください。</p> <p>今年度の活動で連携の得られた団体等との関係を基礎としつつ、地域(今回対象内外の両エリア)、年齢層、社会的意義付けの異なる範囲への拡大を検討する。</p> <p>自己資金での活動が即ち社会奉仕的立ち位置のみとなってしまう様、工夫と施策の検討を重ねたい。</p> <p>今回のファンド(と類似した制度等)について、今後の方向性と意向が合致していく様であれば、活用も検討したいと考える。</p>